

## エピソード48

「なんだ、先生、大したことはない  
じゃないですか。」



なみちゃん

小学校教師として25年以上の経験  
があります。エデュサポネットのファ  
シリテーターです。



小学校の高学年を担当した時の  
経験をお聞きします。

僕が担任したけんた君は、食物アレルギー  
でした。アナフィラキシーショック用の  
エピペンを、保健室で保管していました。

給食は、けんた君が食べられる食材で、  
お母さんが作って持たせてくれました。





けんた君の様子はどうでしたか。

高学年のけんた君は、自分の状態を把握  
していて、医師からの注意や指示も  
家庭で話し合って理解していました。

アレルギーのお子さんを担任したのが  
初めてだった僕は緊張していましたが、  
けんた君の様子を見てホッとしました。





そんなけんた君に  
どんなことが起きましたか。

ある日の昼休みに、けんた君の顔が  
真っ赤になり、息も少し荒くなりました。

僕はびっくりして気が動転してしまい、  
けんた君を保健室に連れていき、すぐに  
保護者に連絡して迎えに来てもらいました。





その後、迎えに来た保護者とは  
どんなことがありましたか。

驚いて飛んできたお母さんは、けんた君の  
様子を見て、「なんだ、先生、大したこと  
ないじゃないですか。」と言いました。

大変なことになったと思っていた僕は、  
お母さんの言葉にびっくりしました。





お母さんは、どのように説明してくれましたか。

食事の後に激しい運動をすると、このような状態になることを話してくれました。

「けんたには、昼休みはあまり暴れないようにって言うてるんですけどね。男の子なもんで、わかっていても遊びたいんですよね。」と苦笑いをされていました。





先生は、その話を聞いて  
どう思いましたか。

そうだったのかと思いながら「僕はどうし  
たらよかったのでしょうか」と尋ねました。

するとお母さんは「どんな状態か、一番  
わかっているのはけんたです。けんたに  
まず聞いてみてください」と言いました。





先生は、このことから  
どんなことを考えましたか。

お母さんにそう言われて、僕は気が動転  
していたので、肝心のけんた君に、どんな  
様子か、どうしたらいいのか、聞いて  
いなかったことに気づきました。

それに、お母さんから、きちんと  
聞いておくべきだったと反省しました。







保護者と先生のやりとりを見ていた  
養護教諭は、何か話していましたか。

今回は何事もなくてよかったけど、命に  
かかわることなので、私ももう少し情報を  
聞いておくべきだったと言っていました。

家庭と養護教諭と担任とで、情報を  
共有することが大切だと思いました。





## なみちちゃんの一言

- アレルギーは命にかかわる大事なことなので、保護者や医療機関から情報を提供してもらい、養護教諭を中心に学校全体で関わらなければならないことがあります。
- 保護者や子ども本人は、他の子どもたちと変わりなく生活したいという思いを持っていることも多いです。
- その思いを理解して、配慮ができるといいですね。

お・し・ま・い



イラスト 尾上樹里  
(北海道教育大学 大学院生)